

令和2年度学校自己評価システムシート（さいたま市立大宮国際中等教育学校）

目指す学校像	大宮国際中等教育学校は、よりよい世界を築くことに貢献する地球人の育成を目指しています。そのため、学校生活のあらゆる機会を通して、未来の学力を備え国際的な視野を持つ生徒の育成を目指します。
--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

重点目標	<p>効果的な教育環境を整え、生徒が以下のような姿に近づくことを目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 有意義な学校生活を送るために必要となる基本的な学習習慣を身に付けるとともに、概念学習の要点や実際の取り組み方について理解する。学校における様々な活動の関連性に気づく。 2 互いへの尊重と支え合う精神にあふれた、開かれた学習環境作りに責任をもって取り組む。学校コミュニティのすべてのメンバーと良好な人間関係を築く。 3 新しい学校生活に慣れ、様々な学習経験を通して肯定的な自己イメージを持つとともに、失敗は学ぶ機会であることを理解する。 4 他者の意見や考えに耳を傾け、理解しようとする。新しいことや難しいことにも積極的に挑戦する。
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価（2月1日現在）				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策
1	○「Grit Growth Global」の校訓に基づいた教育の具現化のため、IB教育プログラムを実施。今年度MYPの認定を受ける予定である。引き続き、探究学習、概念学習の充実が課題である。加えて、年度当初の臨時休業中に本校の学習コンセプトに則って実施したオンライン授業（VM）を検証しながら、対面授業の一層の改善と、ICTの積極的かつ効果的な活用を推進する。また、令和4年からスタートする後期課程のカリキュラム編成が重要課題である。	・MOIS型探究学習の推進 ・授業改善とICT機器の活用状況 ・DP導入に向けた準備状況及び後期課程カリキュラム編成の進捗状況	1 特色ある3つの教育活動（3G Project、English Inquiry、LDT）やAll English、Club Activitiesによる探究的な学びの場を提供 2 ユニットプランナーの作成及び、計画的、継続的な学習実践とその評価・改善 3 ネイティブ教員が実施する、学校独自のイメージ教育「English Inquiry」の授業における学際的な学びの推進 4 1term100分を基本とした、約26人の少人数編成授業の実施と個に応じた学習指導 5 一人一台のタブレットパソコン、各教室等に設置のプロジェクト等のICT環境を活用したアクティブラーニングの実践 6 IB研究部およびカリキュラム委員会等を中心とした全校的な研究	1 探究学習のサイクルを通しての、生徒の探究活動への取組状況、教科学習への興味・関心の深まり 2 ユニットプランナーに基づいた概念学習の計画的な実践と生徒の深い学び 3 English Inquiryを通じた学際的な学びと、英語の4技能の能力伸長 4 ファシリテーターとして、個々の生徒に対応した適切な指導 5 ICTのソフト、ハード両面の積極活用の推進と授業とのマッチング 6 カリキュラムの編成状況及びDP導入に向けた取組状況			
2	○本校は、関わるすべての人たちが学ぶ場である教育コミュニティである。学年に特化することなく、学校全体で教育環境の整備を推進させる。要であるIBに対する理解を深めながらDP認定に向けた準備と併せ、保護者、地域や外部団体と連携をさらに進める必要がある。	・学習態度を育む教育コミュニティの形成 ・関係機関との連携 ・PTP活動の推進	1 全体教科会や教員同士による授業研究の実施を通し指導方針の共有と統一した指導法の確立 2 IBワークショップへの参加及び先進校事例研究 3 協定締結先各大学院と連携した教育活動の推進 4 IB理解を意識したPTPワークショップ・カフェの開催 5 本市の教育研究への寄与を目的とした、他校教員への授業公開、市教委と連携した教育活動	1 研修会等の実施を基盤とした成果検証 2 ワークショップや先進校研究の実績 3 筑波大学大学院及び東京学芸大学大学院の教員、大学院生との協働の状況 4 PTPと連携したIB理解のためのワークショップ開催実績と保護者満足度 5 本校教育内容及び教育活動の情報発信の実績			
3	○将来、実社会で役立つための経験値を高める教育活動を展開する。教科学習と学校行事を連動させ、さらにキャリア教育に結び付く体系的な活動の構築が課題である。開校2年目として前年度未評価にあるLDTにおける校外活動を充実させることと併せ、学習の出口と社会との関連性に気付かせる。	・生徒一人ひとりの進路実現に向けた活動、キャリア教育の取組 ・LDTの取組状況	1 教育活動によって得た成果を社会活動につなげる機会を設定 2 大学等と連携し、学生と本校生徒が環境などの社会問題について知識、理解を深めるためのディスカッションの実施 3 生徒のService as Action (SA) 活動先の決定、世界のために何が出来るかの探究と行動 4 LDTにおいて、生徒自らによるワークショップ開催やインタビュー実施など、生徒の自主的な活動を推進	1 社会活動への参加に対する生徒自らの自己評価 2 社会問題と自己との関連性の理解度と世界貢献への意識・態度の育成状況 3 SAの実施状況と生徒の活動状況 4 LDTの活動実績と生徒自らの自己評価			
4	○前年度の活動を基盤として、STEMやISN2.0等の活動の支援を通し、生徒の幅広い活躍を推進させる。行事の変更を余儀なくされた今年度の状況を踏まえ、一刻も早い日常スタイルへの復帰と生徒のモチベーションの維持、喚起が課題である。	・よりよい世界を築くことに貢献するパーソナリティの形成 ・生徒活躍の場のさらなる拡充	1 探究発表会の充実を図るため、先進校の事例研究等を通した教員の指導力向上による生徒への支援の充実 2 授業外での活動として、Programming、MOIS Shop、Japanese Café、English Gymなど、生徒の興味とニーズに応じて参加できるよう、多様な機会を設定するとともに教員による個別最適化した指導の実施 3 市教委の施策や地域団体のコンテストなどへの積極的な参加の促進	1 事例研究等の実施状況及び前年度実施との比較検証 2、3 各プログラムの実施状況及び参加生徒実績、教員の指導状況			

学校関係者評価
実施日 令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等